

〈岩見沢団体研究グループ〉 活動報告

現在、給源不明の火山灰のデータを地球科学に投稿するための作業を行なっています。ずいぶん長く調査してきたため記憶やデータを呼び戻すのに四苦八苦しているところです。

5月上旬に久々の野外調査を実施しました。過去のデータの確認のための調査でしたが、少し前まであった立派な露頭が姿を変え観察不能になっていることが多数発覚。露頭そのものがなくなっていたり、植生がひどくて人力で地山を露出させることが不能になっていたりと参加メンバーは大ショック。一方で新しくできた露頭の発見もあり、悲喜交々の調査となりました。

引き続き、野外調査や、データの確認およびまとめの作業を進めてゆく予定です。

連絡先：金川和人 kanagawa@pop12.odn.ne.jp



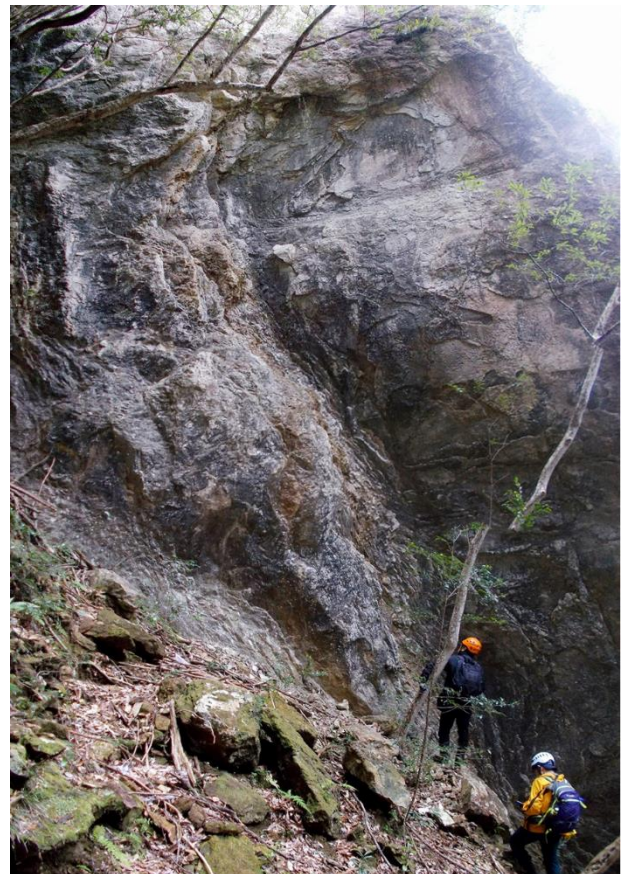
新しくできた露頭にテンション上がる

〈設楽団体研究グループ〉 夏の調査の予定

相変わらず、真っ白な流紋岩類の調査を続けています。現在の調査は、国の名勝及び天然記念物に指定されている乳岩（ちいわ）および乳岩峡周辺です。流紋岩質凝灰岩から炭酸カルシウムが染み出して乳房状の鍾乳石をつくり、その形状から乳岩と呼ばれている場所です。指定の理由は、乳岩は流紋岩質凝灰岩に生じた鍾乳石が珍しいということのようです。「乳岩は流紋岩質凝灰岩である」と書かれたことで、旅行ガイドなどでもそのように扱われていました。団研の調査の積み重ねでようやく流紋岩質岩の識別ができるようになり、乳岩は凝灰岩ではなく、流紋岩の割目から炭酸カルシウムが染み出したものだということがわかりました。とはいえ、この地域には多様な岩相の流紋岩質岩が露出していますのでそれらの調査を進め、だれが見ても乳岩は流紋岩だと思えるようにはいけません。最近の調査で興味深い露頭が見つかりますが、この露頭がうまく解釈できていません。この夏の総会の団研写真展への出展を考えています。

設楽団研の調査はメンバーの都合の合う日に実施します。興味のある方は下記までお願いします。

連絡先：吉村暁夫 (pippi@ma.medias.ne.jp)



乳岩付近の露頭（写真2枚を合成）

つくば総会での「団研写真展」、「自慢の露頭写真展」にぜひご参加ください。

8月9日（金）まで出展の応募を受け付けます。（詳細は「そくほう7月号」をご覧ください。）
展示は8/17（土）12:00～8/18（日）13:00の予定です。8/17（土）18:00から出展者から作品紹介と交流の時間を設けます。みなさんのご参加をお待ちしております。（団研係）

<箱根発生期団体研究グループ>

久しぶりに野外調査を6月25日に行いました。前々日まで強い雨が降っていたので天候を心配していたのですが、幸い当日は全日曇りで気温もそれほど高くなく無事調査できました。しかし日頃の運動不足のためと、山の斜面が濡れていて足場が悪かったため体力を相当使ってしまい全員立っているのがやっとという有様で駅にたどり着きました。自分たちが高齢者であることを思い知らされた一日でした。良かったのはヒルが全くいなかったことです。前回までの調査は鮎沢川の北の赤根ケ沢でヒルにずっと悩まされたのですが、今回の調査地域は鮎沢川の南方だったのでヒルが川を渡れなかったようです。どうやら箱根地域にもヒルのブラキストン線が存在しているようです。さて夏の団研予定は以下の通りで、いずれも室内団研です。論文作成が中心です。

7月9日(火) 室内団研 11:00 池袋地団研事務所

7月23日(火) 室内団研 11:00 池袋地団研事務所

8月6日(火) 室内団研 11:00 池袋地団研事務所

連絡先：宮城晴耕 smiyagi@kir.biglobe.ne.jp



駿河小山駅南方滝沢川左岸側の不整合。基盤の塩沢上部層（約60万年前）の礫岩を大沢層（約40万年前）のスコリア質火山砂（滝の上側）が覆っている。

<朝日団体研究グループ>

団研では朝日山地の花崗岩類について50年以上にわたり調査研究を続けてきた。近年のおよそ10年間は化学分析や年代測定などの室内作業、そして追加の野外調査を行っている。朝日団研（1987）では山地中央部～西部の花崗岩類を13岩体に区分した。その中で中岳岩体とその類似岩相は、大朝日岳付近から東側および南西側の広い区域を占めており、主に中粒黒雲母角閃石花崗閃緑岩からなる（右上の写真）。

2018年頃までの14試料の年代測定により、中岳タイプとした岩相の中に、年代値で約12.5 m.y.の差を示し、化学組成のトレンドもやや異なる岩相が見つかり、これを荒川タイプと仮称して分布や特徴を議論してきた。その後、中岳山頂付近の花崗閃緑岩（右下の写真）の検討から、この岩石が典型的な従来の中岳タイプの中粒黒雲母角閃石花崗閃緑岩とは異なることが明らかになった。そのため、従来の“中岳タイプ”の名称や分布について再検討の必要が生じている。

現在までに14+8試料の年代値が明らかになっており、さらに18試料のU-Pb年代測定を予定しており、秋の地質学会に向けて火成活動の年代や岩石学的特徴の検討を進めているところである。

（文責：大坪、文献省略）

連絡先：大坪友英 ohtsubo@tokyocivil.co.jp



従来の中岳タイプの花崗閃緑岩（弱片麻状部）



中岳山頂直下の花崗閃緑岩
※いずれも写真長辺5cm

<福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ（略称、原発団研）>

福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ（原発団研）では、現在、8月の地団研つくば総会までに地団研ブックレット18『福島第一原発の汚染水発生量を抜本的に減らす対策』を発行する準備を進めています。これは、地団研ブックレット16『福島第一原発の汚染水はなぜ増え続けるのか』を1万4千冊以上普及して在庫が少なくなったことと、昨年8月から始まった海洋放出の実態を踏まえてブックレット16の内容を大幅に改訂したいと考えたからです。つくば総会では、8月19日のポスト巡検「B-5：福島第一原発周辺の現状と原発団研調査露頭」を原発団研のメンバーが案内します。

2024年10月26～27日には、「2024年秋の原発団研」を開催します。26日は午後から福島大学で室内団研（オンライン併用）、27日は南相馬市で現地調査を行う予定です。

連絡先：柴崎直明 nshiba@sss.fukushima-u.ac.jp